



# すみ 隆仁

## 議会活動報告 2021年冬号

経歴

昭和54年2月20日 千葉市生まれ  
千葉大学附属小学校卒業  
市川学園(市川中・高校)卒業  
日本歯科大学新潟生命歯学部卒業  
日本大学大学院総合社会情報研究科 修士課程修了  
歯科医師  
元防衛省歯科医官

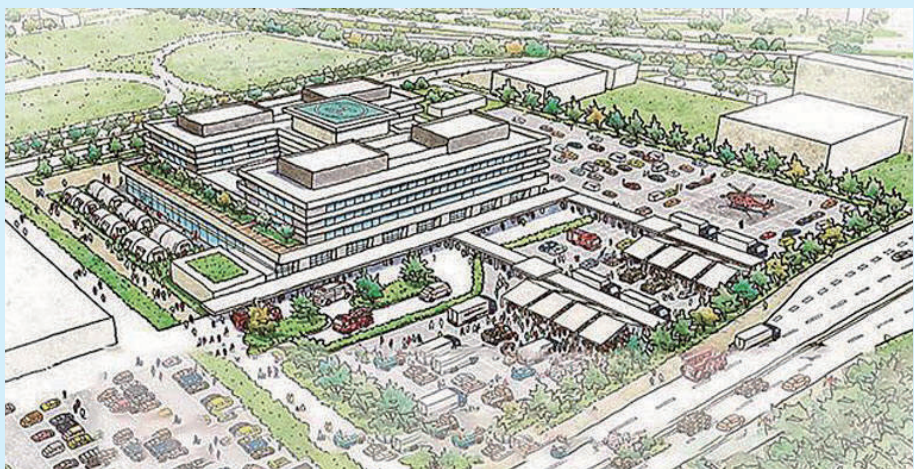
現在

自由民主党  
千葉県千葉市美浜区第十二支部 支部長  
保健消防委員会副委員長  
超高齢社会調査特別委員会委員  
保健所運営協議会委員、保護司・消防団員等

### TOPICS 千葉市立新病院(現海浜病院)について

#### 胎児から高齢者まで切れ目ない医療を市民に提供

1984年に開設された千葉市立海浜病院は、経年経過による建物の老朽化や不具合が進行しており、応急的な修繕で対応している状況が続いています。千葉市中央区にある市立青葉病院との機能・役割の分担という観点や、現海浜病院の経営面も踏まえ、これまでに建て替え・移転、新病院の機能等の検討が進められてきました。現在、2025年度(令和7年度)上半期内の開院を目指し、現海浜病院の機能を基盤とした新病院の整備を推し進めているところです。建設予定地は、美浜区若葉3丁目。現海浜病院から北に約2キロの場所で、アクセスの利便性の向上も見込まれています。新病院は、美浜区を中心とした市西部地域の中核的な病院として、地域医療機関等と連携・役割分担しながら、少子高齢化社会において市民が必要とする総合的な医療の提供を目指します。また、千葉市北西部にはがん患者に対して幅広く治療を行える施設がないため、特にがん診療体制の強化を図る方針です。



イメージ

千葉市立新病院(現海浜病院)の整備基本計画等の概要は次の通りです。

#### ▶ 病床数 333床(現:293床)

##### ■ ICU・HCU…14床(現:14床)

新たに集中治療室(ICU)を整備し、重症患者の集中的管理を行う

##### ■ 周産期・新生児治療、小児病床…119床(現:132床)

少子化を考慮しつつも、医療資源と機能を集約し、引き続き中核施設として整備

##### ■ 一般病床…200床(現:147床)

高齢化に伴う入院需要の増加へ対応

#### ▶ 計画概要

敷地面積 約35,000㎡ / 建築面積 約8,800㎡

延べ面積 約33,000㎡(病院本体、講堂、附属棟)

構造 鉄筋コンクリート造・一部鉄骨造(基礎免震構造)

階数 地上5階+塔屋1階(機械室) / 最高高さ 29.6m

Check!

#### 新病院は、ココを整備・強化します!

- 高齢医療や救急医療の強化にともない、既存診療科の継続に加え、「がん診療や循環器疾患、脳神経疾患、糖尿病、整形外科疾患に係る診療科の整備・強化。
- 呼吸器外科、呼吸器内科、脳神経外科、整形外科、泌尿器科、救急科、麻酔科、集中治療科等を整備・強化。



#### 海浜病院の現 診療科目

内科/脳神経内科/呼吸器内科/消化器内科/循環器内科/感染症内科/糖尿病・代謝内科/内分泌内科/小児科/小児科(新生児)/小児外科/外科/消化器外科/乳腺外科/整形外科/形成外科/脳神経外科/心臓血管外科/泌尿器科/産科/婦人科/眼科/耳鼻いんこう科/リハビリテーション科/放射線治療科/放射線診断科/麻酔科/病理診断科/救急科

### TOPICS 千葉市ふるさと納税制度 返礼品の見直し・拡充



千葉市では、個人からのふるさと納税に関して、寄附額よりも流出額が上回る状況が続いています。この問題や返礼品の拡充、寄附金額の値下げ等の改善等をするように、私も一般質問にて何度も改善をお願いして参りました。これを受け、寄附金額の見直しや返礼品の拡充を実施しました。これまでは5万円以上の寄附が対象で、返礼品は市施設の利用券など26品にとどまっていたが、11月26日から、返礼品を65品まで追加し、寄附金額も返礼品に応じて3000円から設定しました。追加した返礼品は、千葉市の食のブランド「千」認定のトマトのほか、千葉ロッテマリーンズやジェフユナイテッド市原・千葉のグッズ、千葉都市モノレールの車両基地見学、海を眺めながら食事ができるレストラン「ザ・サーフオーシャンテラス」(美浜区)での食事券など、市ならではの特産品や体験をそろえています。また、寄附の間口を広げるため、掲載するふるさと納税サイトも増設しました。従来の「ふるさとチョイス」のほか、新たに「楽天ふるさと納税」でも寄附が可能となっています。来年4月には「ANAのふるさと納税」にも掲載を予定しています。ふるさと納税をきっかけに多くの方に千葉市に関心を持ってもらうため、返礼品も今後さらに追加していく予定です。



### TOPICS 検見川・真砂スマートIC 準備調査へ



国土交通省は今年10月、千葉市美浜区内で東関東自動車道と接続する検見川・真砂スマートインターチェンジ(仮称)を、スマートICの必要性を直轄で調査する「準備段階調査」に採択しました。千葉市は9月補正予算で予備設計などに3000万円を計上しています。

美浜区の千葉西警察入口交差点付近から、国道14号と国道357号が合流・分岐する真砂交差点付近までの区間が、想定される設置予定箇所です。検見川・真砂スマートICを新設することで、物流施設などが集積する千葉港など湾岸地域と東関東自動車道とのアクセスの利便性を高め、移動時間の短縮による物流の効率化、穴川IC周辺の慢性的な渋滞の緩和などを図る狙いです。本市では、早期の新規事業化に向けて、予備設計や環境影響調査、用地測量などに着手するとともに、準備会の設置を検討していく方針です。



新しいスマートIC設置の調査区間

Check!

#### 渋滞緩和期待、準備調査へ

- 穴川IC周辺や、国道357号の東京方面への混雑緩和が期待できる。
- 千葉方面へ向かう国道357号では更なる渋滞の発生が予想。スマートICの設置とあわせて国道の拡張を検討する可能性もあり。

